

# 上益城郡教科等研究会（中学校総合的な学習の時間部会） 平成28年度 研究活動のまとめ

## 1 研究テーマ

生徒が主体的・創造的・協同的に取り組むことができる探究活動の在り方  
～生徒一人ひとりが輝く「分かる・できる」「楽しい」授業づくりを通して～

## 2 研究経過

期日	人数	活動内容	場所
5/31(火)	9	研究テーマ・計画・組織等協議 (半日)	甲佐中学校
8/16(火)	9	①農作業体験②理論研修 (一日)	山都町
10/18(火)	9	研究授業・授業研究会 単元名：「地域調べ」学習 授業者：教諭 福永ひとみ (半日)	嘉島中学校
1/30(月)	9	研究のまとめ（レポート研修） (半日)	木山中学校

## 3 研究の概要

### (1) 研究の内容

これまで本部会では、総合的な学習の時間の目標に焦点を当て、「生徒が主体的・創造的・協同的に取り組むことができる探究活動の在り方」を創造することを、研究テーマに設定して取り組んできている。また、学習指導要領では、体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることを、問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けることの大切さを述べている。本部会では、このような言語活動を計画的に設定し、「分かる・できる」「楽しい」という学習への満足感を高めることもめざし、副題に取り入れて研究を推進していくこととした。

#### ① 学習指導要領趣旨理解の研修

本年度も、部会員の構成が大きく代わったため、学習指導要領の改訂の趣旨や要点・目標・内容に関する改善点と学習指導の展開例を確認する研修を実施した。

学習指導要領の改訂の趣旨や要点・目標・内容に関する改善点については、学習指導要領から必要な内容を抜粋して、開設当初からの流れと課題点に対する具体的な改善点を確認した。

具体的な学習指導の展開では、「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）」を使って、以下のことについて協議した。

ア 探究的な学習 イ 協同的な学習 ウ 体験活動の重視 エ 言語活動の充実  
オ 評価の観点・方法

#### ② 単元計画作成と探究的な活動の「整理・分析」段階の演習

各学校の単元計画作成状況を確認し紹介をしてもらった。木山中学校の単元計画を例に、各学校で本年度作成してもらう単元を決定してもらった。探究的な学習活動や協同的な学習活動については、具体的な活動や活動上の課題点を出し合い、自分の学校の状況と比較してもらい、課題解決を行った。

探究的な活動の演習では、「整理・分析」段階でどのような活動ができるのかを全員で考えた。グラフ化、ベン図、座標軸、ブレインライティングなどの技法を学ぶことができた。

#### ③ 農作業体験と生活科・総合的な学習の時間の理論研修（小学校部会と共同開催）

ア 農作業体験と出荷見学

（ア）農作業体験

キャベツ栽培農家工藤さんのキャベツ畑に集合し、農作業体験を実施した。初めに、工藤さんより栽培面積や農業経営方針などの概要を説明してもらい、質疑応答を行った。質疑応答の内容は、以下の通りである。

Q：畑の周りにある電柵は動物避けのためか？

A：シカ、イノシシ避けである。特に最近は、イノシシの数が急激に増えている。

Q：キャベツを7種類も栽培するのはなぜか？

A：露地栽培では、キャベツは雨に弱いため品種を増やし収穫量を安定させている。



【 農作業体験の様子 】

Q：露地栽培で難しい所は何か？

A：この圃場のキャベツも梅雨前に種をまいたが、大雨で肥料が流され成長が遅く小玉になっている。また、現在夏の暑さにより、虫の駆除や草取りが大変である。

Q：どのくらい収穫されるのか？

A：現在は、1日4t～5t毎日収穫している。朝5時頃から始めている。

質疑応答を終え、収穫体験に入った。まず、手で外の葉を1枚程よけて、根本に包丁を斜めに入れてから収穫することを教えていただいた。今年は、台風と大雨で生育が悪く小さいキャベツが多いということであったが、「なるべく大きいものを選んで収穫して下さい」ということで、参加者全員がキャベツ畑に広がり、すがすがしい風を感じながら収穫を体験した。参加者は、収穫しながら工藤さんに「キャベツの成長が遅いものは、このままにしておくのですか」「キャベツの外葉を2～3枚残して収穫するのはなぜですか」など、積極的に質問をする姿があった。収穫後は、工藤さんからキャベツの試食があった。その場で採った新鮮なキャベツは、瑞々しくとても甘くておいしいものであった。ぜひ、子どもたちにこのおいしさを伝えたいと思った。また、収穫を体験し、一つ一つのキャベツを、手作業で収穫することの大変さを実感することができた。

#### (イ) 出荷見学

工藤さんの作業場に移動し、出荷作業の様子を見学した。集荷先は地元JA、グリーンコープ、人吉青果で九州や関西方面へ出荷しているということであった。グリーンコープとは、契約出荷を結んでおられ出荷全体の3分の1を占めるということであった。「契約出荷は、契約個数や品質を守らないといけないので、大変ではあるが経営安定のためにしっかりした作物を作ることが大切」と話されたことに、工藤さんの誇りと自信を感じた。



【 出荷見学の様子 】

箱詰め作業では、キャベツの大きさによって箱に入れる個数が異なり、切り口を外に向けて下向きに入れることで、キャベツが傷つきにくいようにしている。このように丁寧な入れ方をすることで、取引先の信用度が変わってくると話された。信用を得るために、細心の注意を払いキャベツを扱っておられることに感心した。

キャベツ出荷用のダンボール箱を自動で作る機械や苗を植える機械も見せていただき、「家族経営なので、機械に頼らないとできない」と話されたことが印象に残り、合理化と作業の軽減に努力されていることが伝わってきた。最後に工藤さんから、「農業は作物管理をしっかりして良い作物を作り、収入を安定させることが大事である。そのために、機械、肥料、種、箱代等の費用がかかり、農業は先行投資であること。毎年気候条件が違うので、栽培には毎年苦勞していること。品種、植える場所、病気への対策など、多くのことを考える必要があること。雨の日でも収穫して出荷し、出荷を切らさないことも信用、信頼につながること」などを熱意を込めて話していただいた。工藤さんの努力や工夫を子どもたちに伝えたいと強く思った研修となった。

#### ④ 生活科・総合的な学習の時間の理論研修

県立教育センターの本山浩文指導主事、有田啓二指導主事のお二人を講師として招き、生活科と総合的な学習の時間の理論研修を行った。

講話1では、本山指導主事から小学校の生活科について、以下のような講話と演習を行った。

##### ア 生活科の目標と内容について

改善の基本方針から「自分自身への気づき」をキーワードに、目標の具体的な捉え方を教えていただいた。特に印象に残ったことは、生活科の目標として、最終的にめざす「自立への基礎を養う」には【学習上の自立】【生活上の自立】【精神的な自立】の三つがあることが分かり、小学校から中学校への9年間の生活科・総合的な学習の時間のつながりの基本を知ることができた。

##### イ 生活科の学習指導と評価の進め方について

生活科の活動や体験による気づきが質的に高まることによって、目標を達成できる。実際の指導場面に照らして、「振り返り表現する機会」「伝え合い交流する場」「試行錯誤や繰り返す活動」「児童の多様性を生かす活動」を設定することによって気づきの質を高められるということであった。また、生活科の学習の基礎にあるのは、児童理解と個に応じた指導、評価の進め方によって児童の成長やつまづきを見取っていくことが大切であると話された。参加者は、ペアで児童理解と個に応じた指導について演習を行い、「対話」と「能動的な評価」の工夫が大切であることに気づくことができた。

講話2では、有田指導主事から総合的な学習の時間における実践のポイントとして、主に思考ツールの利点をいかした学習過程について、以下のような講話と演習を行った。



【 本山指導主事の講話の様子 】

#### ア 学習指導の基本的な考え方について

総合的な学習の時間の目標を、「総合的な学習の時間の在り方」「育成する資質や能力及び態度について」「育てたい子どもの姿について」の3視点から、分析し捉えることが大切であること。育てようとする資質や能力及び態度については、育てたい力を「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」の3つの視点から考え、各学校で具体的に設定して実践することが大切であると話された。



#### イ 学習指導のポイントについて

具体的な児童生徒の活動の姿をイメージして、その【 有田指導主事の講話の様子 】活動が探究的な学習過程のどの部分にあたるかの演習を行った。参加者それぞれに捉え方が違い、指導者の見方や学習の目標によって変わってくることを改めて自覚できた。

思考ツールの活用演習では、各グループに分かれ最初にウェビングの思考ツールを使って「蜘蛛の巣のようにイメージを広げて課題設定しよう」のねらいのもと、熊本の良いところを出し合い、課題設定の仕方について学ぶことができた。最後に、ロジックツリー（分類しながら具体的なアイデアを考える）の思考ツールを使って「熊本の世界明治遺産に観光客を呼ぶためにはどうすべきか？」の課題について、グループワークを行った。どのグループも激論が交わされ、活発な演習が行われた。この後、ポスターセッションによって、各グループのアイデアとその根拠を聞いて共有化が行われた。とても、楽しい活動で子どもたちにも経験させたいと思った。

#### (2) 成果と課題

成果としては、農作業体験により山間地での農業の工夫や努力、課題について知ることができ、地域で活躍されている人たちの授業への活用を図る人材、教材開拓のヒントになった。理論研修では、生活科・総合的な学習の時間の学習目標の系統性と、小学校と中学校の活動内容の系統性と連携の在り方を学ぶことができた。演習によって体験できたことは、即学習指導にいかせるものであった。研究授業では、指導案の形式が固定化され、授業づくりのポイントが捉えやすくなり、学習と評価の系統性もつかみやすくなった。また、学習内容の発表のさせ方や相互評価の方法を提案する学習展開がなされた。

課題としては、どの学校も固定化された総合的な学習の時間の計画があり、その計画を使って毎年同じ学習の繰り返しや担当者が代わると活動が元に戻ってしまうという課題も引き続き残っている。学習単元計画の完全作成をめざし、年間計画にリンクさせた探究的な学習の展開を実施していく必要がある。また、今年度学んだ思考ツールの活用によって、子どもたちの学習意欲や能力をさらに高める必要がある。3年間を見通し、系統立てた活動や評価の継続的な研究や小学校の学習内容との連携と精選も必要である。

#### 4 実践事例

##### (1) 授業研究会の概要 「ふるさと発見調べ学習」 授業者：嘉島中学校 教諭 福永ひとみ

本授業は、1年生の地域調べ学習の授業であった。4コースに分かれて学習課題を設定し、子どもたちが調べた内容を、スライドショーを使って発表し、互いにアドバイスを付箋に記入し、発表の仕方、内容の精度を上げるものであった。生活体験や現地調査を通してつかんだ情報をもとに、将来の嘉島町や熊本地震からの復興を想像した現在の良さと未来志向の発表内容であった。

##### ① 自評

- ・小中学校の先生方が来られるということで、子どもたちは張り切っていた。
- ・この単元学習ができるか、今年は地震のために心配したが、4月末にアンケート調査を行い、子どもたちの多くが嘉島町について知りたいと書いてきたのでやることに決めた。
- ・9月下旬から学習を始め、少ない時間の中でやってきた。今日、初めて発表内容を見た。子どもたちも発表は初めてであった。フロアの友達から多くのアドバイスをもらったので、今後活用し、修正して学習を進めていきたい。



【 発表の様子 】

##### ② 質疑応答

Q：小学校の学習との違いは？

A：小学校との地域学習との違いは、子どもたちがあまり小学校の内容を覚えていない状況であった。東小など小学校区の内容は調べていたが、嘉島町全体のことは知らなかった。

Q：インタビューや現地調査などの情報収集時の教師の関わりは？

A：5人の職員で、4コースを見ている。福永がフリーで動けるように対応するよう仕組みで

いる。支援員の先生にも協力していただいた。

Q：今日の学習で出てきたアドバイスは、今後どのように活用されるのか？

A：発表の仕方についてのアドバイスが多かった。発表の内容については少なかったように思うので、この後確認して伝えたい。総合司会者を立てて、何回か手直し、リハーサルを繰り返して本番を迎えたい。

Q：班編制について、班を決めて、課題を決めたのかその逆なのか？

A：アンケート調査から、4コースの課題に分かれ、希望をとって振り分け、コースの中で自分の興味ある内容を調べるようにした。

Q：自己評価について、毎回最初に個人の目標を持たせているのか？

A：毎回目標を持たせ、評価も必ず行っている。担当教師が一言書いて生徒に返している。

③ 協議

○今日のような発表会は、小学校でも行っている。中学校段階での学び方を学ぶことは当然であるが、「人との関わり」を地震後だからこそ大事にしてほしい。

また、レストラン、ピザ屋を紹介した班は、なぜ、嘉島町に店を出したのか、どのような思いを持って出店されたのかなど、人と関わっての学習を深めていけるとよいのではないか。

○復興プロジェクトの取組はよいと思う。どのような関わりを町のためにしてきたのでしょうか。生徒会主催で、ボランティア活動を行っている。避難所での手伝いや学校の周りへの看板設置、はるかひまわりプロジェクトや花作りなどを行っている。今後は、仮設住宅の方との交流会などができたらと考えている。

④ 助言・まとめ

子どもたちに地域に誇りを持たせる学習が地域学習であるが、「地域を知る」ということは地域の中で生活している子どもたちにとっては、日常の当たり前のことなので、なかなか気づかないのが現状である。子どもたちの発表の仕方は、よいことを先に言い、指摘を後で述べているので支持的風土があった。アドバイス面は、整理をして今後の学習にいかしてほしい。

調べ学習では、多くの集団で学ぶので、多くの情報が集まってくる。少ないよりは、多い方がよい。そこから整理・分析を行うことが一番難しい。思考ツールを使いながら整理・分析をさせていくことも、意図的に仕組んでいくことは大事なことである。まとめる段階では、言語、グラフ、写真などでまとめる方法を伝えることが大事である。教師の出番は、学び方を教えることである。

学習は、子どもたちの興味から始まらなければならない。強制的ではなく、子どもたちの興味・関心をスタートに課題選択をさせていくことが、以後の学習意欲につながる。また、先生方には各教科との連携と相互関連、知の総合化として学習内容をいかしてもらいたい。

(2) 学習指導案

● 本時の学習 (11 / 24 時間)

(1) 本時の目標

○他のコースの発表に対して、アドバイスをすることができる。

(2) 本時の展開

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本時の活動内容を確認する。	5分	・コース内での活動がスムーズにいくように支援する。	
文芸発表会での1年生の発表が成功するように、アドバイスをし合おう。			
2 各コースごとに発表する。 ①各コースの発表 ②質疑応答 ③アドバイス等の記入 ④アドバイス等の発表を4コースごとに行う。	40分	・コースごとの発表をしっかりと聞かせる。 ・各コースの持ち時間(各コースの発表～アドバイス等の発表)は10分以内とし、場合によってはアドバイス等の発表を割愛したりする。 ・全員が附箋にアドバイス等を書けるように支援する。 ・各コースの貼附用用紙に間違えずに附箋を貼らせる。	附箋の記述
3 自己評価をする。	3分	・4段階評価と記述による評価をさせる。	ワークシートの記述
4 次時の予告を聞く。	2分	・本日のアドバイス等をもとに、各コースの発表をよりよいものにする活動を行うことを伝える。	